

(1) A：高句麗 B：新羅 C：百済 D：隋

隋は589年に南朝の陳を滅ぼし、分裂時代を終わらせて中国を統一しました。その後、隋は618年まで続きます。加羅（諸国）は朝鮮半島の中南部にありましたが、562年に新羅に併合されたため、7世紀の地図にはありません。

(2) エ

教科書や資料集を見て、仏像の名前だけでなく、「どこのお寺にあるか」まで確認しておきましょう。

(3) B → A → C → D

B：推古天皇の即位（592年）。まずはここがスタートです。崇峻天皇が暗殺されるという大事件の後、初の女帝として推古天皇が即位し、甥の聖徳太子が摂政となりました。

A：冠位十二階の制定（603年）。「能力のある人材を登用する」という組織作りをまず行いました。次に控える外交や法整備を担う優秀な役人を確保するためです。

C：十七条の憲法（604年）。組織（役人）ができれば、次は心の持ちよう（ルール・道徳）を説きました。「和を以て貴しとなす」と、役人としての自覚を促したのです。

D：遣隋使（小野妹子ら）の派遣（607年）。国内の体制が整ったところで、満を持して対等な外交に乗り出しました。煬帝に届けた「日出づる処の天子…」という強気な国書は、国内がまとまったという自信の表れでもあります。

(4) エ

古墳時代の「倭の五王」は、中国の皇帝から「安東大將軍」などの称号をもらうことで、日本国内や朝鮮半島での地位を認めてもらう「臣下としての朝貢」でした。しかし、聖徳太子の遣隋使（特に607年の小野妹子）は、「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す…」という国書からもわかる通り、中国と「対等な外交」を目指しました。つまり、単なる「復活」ではなく、外交のスタイルを根本から変えようとしたのです。

イ：柱の「エンタシス」や、文様に使われた「忍冬文（にんどうもん：パルメット）」などは、ギリシャ、ペルシャ、インドからシルクロードを経て伝わったものです。

ウ：「篤く三宝（仏・法・僧）を敬え」という仏教と、「君をば天とす、臣をば地とす」という君臣の別を説く儒教、さらに「和」を尊ぶ日本独自の調和の精神がミックスされています。

(5) A：厩戸皇子（聖徳太子）…カ B：蘇我馬子…エ C：蘇我蝦夷…オ D：推古天皇…ア

(6) A：和 B：三宝 C：仏法僧 D：詔（みことり）

和（わ）：争いをせず、お互いに協力し合うこと。

三宝（さんぼう）：仏教において最も大切な3つの宝、「仏（釈迦）」「法（教え）」「僧（集団・僧侶）」のことです。

詔（みことり）：天皇の命令のこと。天皇の言葉には絶対に従いなさいという役人の心得を説いています。